２６．７．４
杉並区広報課

聞こえの程度に合わせた手厚いサポート！
聴覚障害者のためのワークショップ開催！

７月４日（金曜）、西荻地域区民センター（桃井４－３－２）で、手話サークル杉の会が、聴覚障害者のため切画のワークショップを開催しました。聞こえの程度は人によって様々ですが、一人ひとりに手話通訳者や要約筆記者を付けた手厚いサポートによって、分からないところは気軽にたずねながら、自分のペースで進めることができるため、参加者はリラックスした表情で楽しく制作することができました。

手話サークル杉の会（設立：昭和５４年、会長：福島みえ子、会員数：２７１名）は、聴覚障害者への理解を深め、地域に手話を広げるとともに、聴覚障害者の文化活動を支援するため、地域で講演会を開催するなど、様々な活動を実施しています。

４日（金曜）、杉の会は、西荻地域区民センター（桃井４－３－２）で、聴覚障害者１２名を対象に、手話通訳者や要約筆記者を一人ひとりに付けた、切画のワークショップを開催しました。

同じ聴覚障害であっても、ろう者、難聴者、中途失聴者によって、聞こえの程度は人それぞれです。これまで、同会では、活動の中で、聴覚障害者の方々から「事故で聴覚を失ったので、手話が分からない」とか「難聴なので、その場の状況によっては聞き取れないこともある」といった話から、一般向けの文化活動に参加しても、充分な情報を得ることが難しく、何度も聞き返したり、事細かに質問することへの遠慮があることが分かりました。

そこで、もっと気軽に楽しく文化活動に参加できる場を設けようと、今回のワークショップを企画しました。

ワークショップでは、切画師・風祭竜二氏から、作り方の説明を受けながら、約一時間半をかけ色紙大の作品を制作しました。「聞く」ことと「作る」ことの間に通訳が入るため作業工程はゆっくり進みましたが、分からない時は気軽にたずねながら自分のペースで進めるとあって、誰もがリラックスした表情で楽しげに作品に向かい合っていました。参加した百合草綾子さん（７０）は「通常、催しなどでの手話通訳者や要約筆記者は、全体で１～２人です。今回のように自分だけの通訳者がいると、講師の説明が分かりやすく心強いので、安心して作品をつくることができ、嬉しいです」と感想を述べていました。

このワークショップを担当する鳥居悦子さん（６３）は、「情報保障はとても重要です。手話の普及活動に取り組むとともに、聴覚障害者が文化活動にも積極的に参加できる取り組みを行っていくことは、手話サークルの一つの役割だと思います。」と活動への思いを語ってくれました。

【問い合わせ先】
手話サークル杉の会　ＴＥＬ：３３９８－１８４３
総務部広報課　　ＴＥＬ：３３１２－２１１１（代表）